

### Ⅲ 事務部門 評価実施概要

#### 1 評価の目的

各運用単位における自主的かつ自律的な改善・改革活動を支援することを目的とする。

#### 2 評価対象

法政大学自己点検委員会規程別表（第2条関係）に定める「適用範囲及び各運用単位」

#### 3 評価体制

大学評価委員会に、事務部会1部会を設置した。主査は大学評価委員会委員、副査は大学評価委員会規程第7条に基づき委嘱された評価員が務めた。

#### 4 評価方法

人事部に提出された2011年度目標の達成状況および2012年度目標について評価した。評価の視点は次の通りである。

##### (1) 2011年度目標の達成状況

- a 目標達成に向けた努力を行なっているか。
- b 目標を達成し、質が向上しているか。

##### (2) 2012年度目標

- a 目標はミッション・ビジョン・各種方針と整合しているか。
- b 目標は具体的なアウトカムが明確になっており、検証可能か。

#### 5 評価経過

2012年4月28日	第1回大学評価委員会 評価計画策定
2012年5月9日	常務理事会 大学評価計画および評価の実施を承認
2012年7月2日～14日	大学評価報告書（部会案）に対する意見申し立て期間
2012年7月21日	第2回大学評価委員会 大学評価報告書（事務部門）承認
2012年7月23日・24日	大学評価報告書に対する異議申し立て期間
2012年9月5日	常務理事会 大学評価報告書（事務部門）了承

#### 6 大学評価委員会事務部会

大学評価委員会委員	吉野 政美	監査室長
評価員	山口 芳江	総長室企画・秘書課企画担当主任
	小澤 雄司	通信教育部事務部通教事務課長
	星崎 亨子	キャリアセンターエクステンション・カレッジ事務課長
	日野 好幸	情報技術（IT）研究センター事務室課長

#### IV 事務部門 評価結果

2012年7月21日

##### 事務部門の評価について

大学評価委員 吉野 政美（監査室長）

大学評価委員会による評価は法令にもとづく質保証のためのものであるが、大学の内部監査のひとつではないかと考えている。監査人の世界では、現場単位の自浄機能に対し、独立した評価にかかわる機能として内部監査組織を位置づけている。これは大学の自己点検と評価にもいえるのではないだろうか。

事務部門でいえば、それぞれの部局が年度目標を定め、中間報告をし、年度末には達成度をふくめ年度末報告をし、それをもとに翌年度には新たな目標を定めることになる。この自己点検に対し評価委員は独立した立場から評価をし、数年に一度行われる認証評価機関による外部評価にも備えていくことになる。

昨年まで各事務部局の目標設定は大学評価室に提出するものと、人事部に提出するものと二つに分かれていた。大学評価室に提出するものはあくまでも認証評価機関の評価基準に基づくもので、指定された項目について現状分析をし、中期目標と年度目標を立て、年度末報告を大学評価委員会が評価するものであった。したがって大学評価室に提出する目標設定は全部局が該当するわけではなく提出を求められない部局もあった。

これに対し人事部に提出する部課目標は大学評価室に提出する目標とは必ずしも一致させる必要はなく、部独自に設定できる点はいいのであるが、中間報告と年度末報告を行う点は同じで、ほとんどの部局で二重の作業を強いられるものであった。

今回二つに分かれていたものを人事部の目標管理制度に一本化し、2011年度の達成度評価も2012年度目標の評価も人事部へ提出のものにもとづいて行うことになった。

評価のポイントとしては、「2011年度目標の達成状況に関する所見」として、目標達成に向けた努力を行っているか、目標を達成して質が向上しているか、という観点から評価し、「2012年度目標に関する所見」については、目標がミッション・ビジョン・各種方針と整合しているか、目標は具体的なアウトカムが明確になっていて検証可能か、ということで評価した。

それぞれの部局が明確な目標を持ち、年度末に達成状況を報告するという目標管理制度は徐々に定着してきており、今回も多く部局で様々な努力が払われていることがわかった。今後は「法政大学のビジョン主要項目—あるべき姿と定量的目標」に沿って、より具体的に部局が運営されていくことになるだろう。

学校法人の監査ということに話をもどせば、財務諸表の監査をする公認会計士や、「教学監査」をはじめとして業務や財務の監査をする監事による外部監査が、主にステイク・ホルダーの視点からの監査であるのに対し、大学の事情に詳しい内部からの評価として当評価が業務改革のPDCAに少しでも寄与できたらと考えている。

以上

## 総長室

### 2011 年度目標の達成状況に関する所見

大学の「理念・目的および各種方針」の改正版を作成し、「ビジョンの主要項目」の選定および「定量的目標」が作成されるなど、年度目標が達成されている。

年度目標3のビジョン主要項目「定量的目標」を実現するための具体的施策については、中間報告の「検討・作成中」に対して、年度末報告においては「2012年度以降、担当部署・組織で作成」となっているが、その経緯・理由が不明である。

年度目標9については、ホームページのリニューアルを実施し絶えず情報発信の強化に努めている点は評価できる。ただし、ホームページでの情報発信との差別化という意味では、SNSの運用方法について更なる工夫が必要と思われる。

### 2012 年度目標に関する所見

ビジョン実現のための新たな施策も検討されており、より一層の効果が期待できる。

目標5については、何をもって効率化したと評価するのか基準が不明確である。大学全体の長期経営計画や新規事業の策定等を担う総長室がこうした取組を所管することが適切かどうかについて再度検討することが必要ではないか。

### 総評

大学のビジョン実現に向けた継続的な取組がなされている。

広報については、ホームページ改善とそこでの情報発信力の強化にむけた取組がなされていることは評価できるが、近年メディア等への露出度は一時期と比べて少ないままであることは否めず、一層の取組が望まれる。

## 大学評価室

### 2011 年度目標の達成状況に関する所見

各年度目標については、ほぼ達成しており、また年度末の達成状況も詳細に報告されている点が評価できる。

ホームページ上での各種資料等の公開も積極的になされ、シンポジウム等での情報発信もあり、こうした活発な取組はおおいに評価できる。

海外大学への訪問調査については、実施に留まらず、ここで得た成果を学内にフィードバックする取組がより積極的になされることを望む。

### 2012 年度目標に関する所見

自己点検評価活動の向上を目指した具体的な目標が設定されていることは評価できる。

目標4について、付属校でも大学と同様の自己点検評価システムが早急に確立され、実施されるよう、より具体的な施策の提示が望まれる。

目標5について、米国の大学で発達している業務機能であるIRは、我が国の大学においても経営戦略の策定に不可欠な機能・要素となりつつある。このような状況のもと、先進事例の情報収集にとどまらず、より具体的な提案がなされることを期待する。

### 総評

認証評価への対応という側面において、十分な体制が整えられており、おおいに評価できるところであるが、こうした取組の成果が現場に上手く反映され、教育研究及び教育支援サービスの質向上につながっていくとともに、ここで得られたデータや知見が、今後はより積極的に経営戦略の策定に活用され、機能していくことを期待したい。

## 関連会社統括事務室

### 2011 年度目標の達成状況に関する所見

就業規則や職務権限表を制定するなど、内部諸規程の整備が進んでいる。

また、適切な人員配置を行い、内部統制に努めており、評価できる。

(3) の物品調達等の今後の事業モデルの在り方についての検討に進展がみられていないが、その理由が不明である。

#### **2012 年度目標に関する所見**

諸規程の整備・拡充に関して、昨年度の達成状況を受けて新たな目標を掲げられており適切である。

目標 2 の品質・サービスの向上について、何れも難易度 B の評価をつけているが、特に清掃業務の質向上については、予てからの懸案事項であり、解決へ向けての早急な対策が望まれる。

昨年度未達成であった物品調達等の今後の事業モデルの在り方についての検討に関する項目が 2012 年度目標には見受けられない。

#### **総評**

人事、財務等において、より一層の透明化が図られ、経営の健全化が確立されることを望む。

## 法人本部

### 総務部

<b>2011年度目標の達成状況に関する所見</b>
多岐に渡る目標に対し、一部申し送り事項を除き概ね達成できている。特に、情報公開、学内諸規定の整備や防災体制の構築への努力は大いに評価できる。一方で、次年度申し送り事項のうち「統括本部長制度の在り方の検討について」は、そもそも2008年1月の制度導入時に「役員会が重要課題を集中的に審議し、学校法人全体の意思決定の迅速化・高度化を図る」という目的を示しており、これに伴うものとして、事務組織の企画・立案機能強化のために検討が進められていると考えられるので、早急に解決すべきであろう。2012年度には確実に結論を得よう実施してほしい。
<b>2012年度目標に関する所見</b>
2012年度目標の設定は適切である。危機管理体制、情報漏えい事故防止、法人ガバナンスの実効性向上および統括本部長制度改正の目標は、一つひとつが重要な課題である。数年来の課題も含まれるが、今年度には確実に達成すべき事項であろう。一方で「地域との連携を促進する」目標については、具体的な内容についての記載がない。より分かりやすい記載方法をお願いしたい。
<b>総評</b>
総務部の課題には、当然であるが法人運営に関する重要な内容が多く、その解決へのプロセスには多くの労力が必要であることは言うまでもない。しかし、課題の達成度合が法人運営に大きな影響を及ぼすだけに、達成に向けた困難性は理解できるが、継続的な検証とともに常に達成に向けた努力を続けていただきたい。

### 卒業生・後援会連携室

<b>2011年度目標の達成状況に関する所見</b>
本部局の目標は「学外組織（卒業生組織、父母組織）との連携のあり方を明確化するとともに、適切・良好な関係を構築する」とあるが、大学と性格が異なる2つの組織との関係性が問われる大きな目標であろう。両組織とも役員が交代し、業務継承の点で若干の停滞があったようだが、意見交換、情報交換の機会を増やし、適切・良好な関係に向けた一定の方向性が確立された点は評価できる。また、LU募金、法政フェア等の業務は達成度Aとなっており、部局全体の目標は達成できている。
<b>2012年度目標に関する所見</b>
2012年度の目標については、昨年度とほぼ同様であるが、設定は適切である。昨年度に引き続き、確実に実施していただきたい。特に、2014年度以降の「新しい卒業生組織」に対応する体制は、数年来の課題であり、準備の最終年度でもある2013年度に向け、議論が進展するよう努力を重ねてほしい。
<b>総評</b>
卒業生組織と父母組織は、大学にとって大きな財産である。これら組織との連携は、本学の社会的ステータス向上の視点からも欠かせない要素である。そのためにも、適切・良好な関係を構築することは大前提であり、これをさらに発展させることが必要であろう。特に卒業生組織は2014年度から変革されることになるので、今後の議論の推移を注視したい。

### 人事部

<b>2011年度目標の達成状況に関する所見</b>
概ね目標を達成していると考えられる。ただし、多くの目標を設定のうち、結果的に未実施に終わっている課題がある。解決への手順や全学に展開するプロセス等、達成に至るには多くの課題があることは理解できるが、目標に設定した以上、途中経過等の記載があつてしかるべきである。また、年度末報告が全目標に対し総括的に記載されているが、次年度以降記載方法の改善を検討してほしい。
一方、「人事問題プロジェクト」については、部長会議への答申を経て、次の段階に入っているとこのこ

となので、今後の議論の推移に期待したい。また、法定外労働時間超過者の減少が見られたことは、大いに評価できる。

#### 2012 年度目標に関する所見

2012 年度目標の設定については、昨年度から引き続く内容が多い。それだけに達成の困難度が理解できるが、昨年度未実施であった目標が今年度は設定されていない。何らかの理由があるのだろうか。

また、「人事問題プロジェクト提言の具体化」は前述したが、今年度の達成状況を注視したい。加えて、昨年度実施した全部局の課長ヒアリングでの意見集約結果が、今年度の目標を設定する際に、どのように活用されているかは分からないが、時間外削減対応のみならず人材育成の視点等も含め、各目標の達成に活かしていただくことを期待したい。

#### 総評

人事部の目標は、教職員すべてに密接に関わるため、多様な意見を聴取しつつプロセスを踏む必要があり、達成への困難度は高いことは理解できる。しかし、数年来の目標も多いので、今年度は各目標に対し一定の結論が得られるよう努力してほしい。また、2012 年度は新たに「メンタルヘルスの推進」が設定されているが、近年とみに対象者が増加している状況にあって、本目標達成の行く末を特に期待したい。

### 経理部

#### 2011 年度目標の達成状況に関する所見

目標 1 および目標 4 について、中長期財政試算を基に、効率的予算配分や各種引当資産への繰入等が適切に行われ、審議会答申に係る事業経費を含む重点事業予算を確保しつつ経常的収支バランスの維持・改善を目指した財務運営がなされていることはおおいに評価できる。

目標 2 の運用収入について、年度末報告で「経済状況悪化により達成困難な状況」と報告されているが、達成度は A 評価となっており、整合性がとれていない。

#### 2012 年度目標に関する所見

教育研究を支える財務体質の強化に向け、高い目標が掲げられており、全体として適切である。

目標 1 について、「要積立額に対する金融資産充足率を 2021 年度で 50%に引き上げる」とあるが、2011 年度中長期財政シミュレーションから判断すると 2020 年度試算額からさらに 170 億円程度の増額が必要になるが、これは達成可能か。

目標 2 について、2011 年度で「経済状況悪化により達成困難な状況」としているにもかかわらず同じ目標が掲げられているが達成する見通しはあるか。また、そもそも運用収入の目標を設定するにあたって帰属収入に対する比率で設定することが適切かどうか疑問である。これを達成するために、投資元本を増額するのか、あるいは運用利回りの向上を目指すのが曖昧であり、より検証可能な目標設定が望まれる。

目標 3 について、補助金申請にあたりチェック機能や指導的役割を果たしていることは高く評価できるが、実務面でより積極的に申請部局と協働していくことも必要ではないか。

#### 総評

厳しい経済、財政見通しの中、中長期的な財務体質の健全化及び強化に取り組む姿勢は大変高く評価できるものである。

なお、2012 年度の部目標が「教育研究を支える財務体質の強化」と記載されているのみで、個別具体的な目標設定が見られない。自己及び第三者により、その達成度が適切に測られるよう、より具体的な目標設定が望まれる。

## 環境保全本部

### 施設部

<b>2011 年度目標の達成状況に関する所見</b>
<p>年度目標についてはおおむね達成されており、目標達成に向けた努力もうかがえる。</p> <p>小金井再開発第2期工事については、竣工時期の延期等反省点はあったものの、2011年度内に竣工できたことは評価できる。とはいえ、大規模工事等ではさまざまな要因により計画通りに進まないことも起こりうるだけに、より綿密な計画・準備が求められる。</p> <p>適切な目標をたて着実に達成されてはいるが、目標1については、「的確な資料を作成する」という目標内容に対し、「諸元表が承認され」「～を取りまとめた」との達成記述があるものの、表現が間接的でやや曖昧である。さらにその後続く文章で資料作成とは関係のない会議手続、設計管理者の決定、基本計画の検討に言及しているため、全体的に見て目標内容と年度末報告の相関性が薄れた記述となっている。今後、年度目標および年度末報告の記述の工夫が望まれる。また、年度目標3については、掲げた目標が工事の着工か完成かが明確でないため、目標の達成度についての判断が難しい。今後は、達成度を評価できるようにより明確な目標を設定することが望まれる。</p>
<b>2012 年度目標に関する所見</b>
<p>昨年度の目標達成状況を受けて、新たな目標を掲げており、全体として適切である。</p> <p>ただし、「設備の発注方法の策定」等2011年度に未達成の目標についても、引き続き取り組まれることが望まれる。</p>
<b>総評</b>
<p>見積書の精査方法の見直し等業務の改善に向けた努力が行われており評価できる。</p> <p>2012年度以降も二中高建替工事等大型工事が予定されているが、スケジュール管理等に注意し、予定通りの日程で完了するよう努力が望まれる。</p> <p>なお、達成度が測りにくい目標の設定や年度末報告の記載がいくつか見受けられたので、より具体的な目標を設定するとともに、目標の達成度合いが分かるような年度末報告の記載が望まれる。</p>

### 事業室

<b>2011 年度目標の達成状況に関する所見</b>
<p>年度目標についてはおおむね達成されており、目標達成に向けた努力も十分に行われている。</p> <p>掲げられた目標の多くは省エネや節電対策、管理経費に関するものとなっているが、さまざまな手法で実現している点は評価できる。特に管理経費を前年度比50%以下に抑えた点は評価できる。</p> <p>食堂の備品等についても、アウトレットを利用するなど、低予算での食堂の充実を実現していることは評価できる。</p> <p>経費の削減と学生サービスの向上の両立は難しい面もあるが、今後も達成に向けた努力を期待したい。</p>
<b>2012 年度目標に関する所見</b>
<p>2011年度の目標を受けてさらに2012年度の目標を設定しており、適切である。ただし、「設備の発注方法の策定」等2011年度に未達成の目標についても、引き続き取り組まれることが望まれる。</p> <p>目標達成後もさらなる努力を続けようとする姿勢が見られ評価できる。引き続き目標達成に向けた努力を期待したい。</p>
<b>総評</b>
<p>さまざまなアプローチで管理経費の削減を実現しており評価できる。</p> <p>節電についても、「省エネ、節電対策の徹底」を目標に掲げ、それに向けた努力もなされているが、実績報告がLEDの導入に限定されている。2012年度も引き続き節電対策が求められるので、学生・教職員への啓蒙活動等も含めて、今後はさまざまな視点での節電対策を期待したい。</p>

## 環境センター

### 2011 年度目標の達成状況に関する所見

「学生環境サポーターの活動や学生の環境意識の高揚を図る」という目標については、実質的な活動回数減少や参加学生の減少等により、その目標を達成できたとは言い難い。授業開始時期の遅れや放射性物質の飛散問題など目標達成を困難にさせた要因があげられているが、それ以外の原因についても検討・見直しが必要と思われる。

また、「発行媒体の見直しと効果的な媒体の作成」や「公開授業の実施」という目標については、その成果が未記入であったため、目標達成度の判断ができなかった。掲げた目標については、その取り組み結果について検証を行いその成果を次年度以降に繋げることが重要であり、今後の取り組みに期待したい。

### 2012 年度目標に関する所見

2011 年度未達成のものも含めて、昨年度の目標を受けて 2012 年度の目標を設定しており、適切である。公開授業の増加等、環境センターだけでは達成できない目標もあるが、関連部局と協力しながら目標達成に向けた努力を期待したい。

### 総評

環境活動に対する学生の参加意欲の向上や意識改革は簡単に達成できる目標ではなく、相当な努力が必要であると思われるが、困難な状況の中でも目標達成に向けて努力している姿勢はうかがえる。

引き続き、学内の環境意識醸成のための取り組みを期待したい。

## 教育支援本部

### 学務部

<b>2011 年度目標の達成状況に関する所見</b>
学生の修学支援や教育研究支援に関してさまざまな目標を立て、実現に向けた努力が行われていることがうかがえる。しかし、未達成の目標が多くあることを考えると、目標への着手の方法や目標設定に問題がないかどうか再考する必要があると思われる。 特に補習・補充教育や障がい学生への学修支援、施設・設備の計画的整備等、学生の学修環境の向上に直結するような施策や目標が未達成である場合が多いので、引き続き努力を期待したい。
<b>2012 年度目標に関する所見</b>
法政大学のビジョン主要項目の定量的目標にそった目標が掲げられており、適切である。課目標を参照すると、部目標を達成するための具体的な施策が記載されており、ビジョンの定量的目標達成に向けた積極的な取り組み姿勢がうかがえる。
<b>総評</b>
学生の修学支援を行う部局としてさまざまな課題がある中、努力している姿勢がうかがえる。しかし、2011 年度に関しては、目標の未達成が多く見受けられた。 2012 年度の目標についても、事務組織だけで解決できない課題も多く、達成には困難が予想されるが、教員との連携を強化しつつ、目標の達成に向けたさらなる努力を期待したい。

### 入学センター

<b>2011 年度目標の達成状況に関する所見</b>
電算システム改修後の初めての入試において、ミス、エラーの発生がなく無事終了することができた点は評価できる。また、震災対応マニュアルの整備や入試問題の訂正ゼロ化目標は、前述の電算システムも含め、入学試験という大学の社会的信用への取り組みに繋がるものであり、目標達成への努力の結果と見るべきであろう。 志願者数 90,000 人台という目標は、結果的には達成されなかったが、2012 年度に新たなプロジェクトが発足するとのことなので、今後の活動に期待したい。
<b>2012 年度目標に関する所見</b>
大学ブランド構築と周知を目指しながら、志願者 90,000 人の実現を目指した広報活動を展開することであるが、新たなプロジェクトの議論を踏まえ、目標の達成を大いに期待したい。また、安全かつ確実・公正に入学試験を実施しながらの各種施策を進めるとのことであるが、志願者数確保の視点との整合性が内容から読み取りづらい。入学センターは、試験実施と広報業務を兼ねているが、双方のスタンスを確固に保ちつつ、目標達成に向け努力していただきたい。
<b>総評</b>
入学試験は、ミス・エラー等に対する社会的影響が大きい。そのためには、安全・確実・公正が求められるのは言うまでもない。従って、これら要因に配慮しながら、各目標を推進することになると思われるが、入試制度変更に柔軟に対応しつつ、収入の安定をはかるべく、志願者数の確保に努めていただきたい。

### 多摩事務部

<b>2011 年度目標の達成状況に関する所見</b>
「各学部事務課と連携をとり各教員へのサポート、学生支援体制を検討する」に対する年度末報告が節電と防災訓練に終始しているが、各課の目標を参照すると、「各教員へのサポート、学生支援体制の検討」にはより多くの課題と成果があったと思われる。適切な達成度評価を行うためには、目標に対するより詳細な成果報告とともに、達成度が明確にあげられるような目標設定が求められる。今後の目標設定の際には、こうした点を考慮することが望まれる。

<p>パス問題については、多摩キャンパスの大きな課題であり、2011年度は補助率を増やすことで問題の緩和を図っており努力の跡がうかがえる。しかし、根本的な解決とまではいっていないと思われるので、引き続き課題解決のための取り組みを期待したい。</p>
<p><b>2012年度目標に関する所見</b></p>
<p>2011年度の目標を受けてさらに2012年度の目標を設定しており、適切である。目標達成後もさらなる努力を続けようとする姿勢がうかがえ、評価できる。</p> <p>部目標では触れられていないが、課目標をみると法政大学のビジョン主要項目の定量的目標達成に向けた目標も設定されている。しかし、ホームページの充実やアンケートの調査分析等学部単体で取り組むよりも多摩事務部全体で取り組むべき項目も見受けられるので、学部間の連携等を図りながら部局全体を意識した取り組みを期待したい。</p>
<p><b>総評</b></p>
<p>パス問題については、早急な解決は難しいと思われるが、多摩キャンパスの学生の満足度向上には欠かせない課題であると思われるので、引き続き解決に向けた努力を期待したい。</p> <p>法人系、教学系の部局が共存する多摩事務部においては多岐にわたる取り組みが必要となり、目標の設定等において難しい面もあるかと思われるが、各課との連携を図りながら部局としての目標設定、目標達成に向けた取り組みが行われることを期待したい。</p>

#### 小金井事務部

<p><b>2011年度目標の達成状況に関する所見</b></p>
<p>実験実習が伴う理工系学部にとって、化学物質の取り扱い（管理）の整備や教育技術員の有用性の向上は重要である。これら目標の最終達成は、2012年度に一部が持ち越されているが、確実に実施していただきたい。また、時間外勤務時間の削減および決裁手続き、支払手続きの厳守は、事務組織に共通する課題であるが、概ね達成されており、評価できる。</p>
<p><b>2012年度目標に関する所見</b></p>
<p>2011年度目標に加え、理系学部の認知度向上が目標に設定されている。もちろん単年度で達成できる目標ではないと認識しているが、入学センターとも十分に協議し、達成に向け努力してほしい。また、前年度から引き続いている目標については、確実に達成していただきたい。</p>
<p><b>総評</b></p>
<p>理工系学部を支える事務局として、危機管理体制構築への取り組みは重要である。特に、化学物質等の適正管理は、法的な裏付けとともに学生・教職員に向けた啓蒙活動への地道な努力が必要である。</p> <p>また、年度末には創生科学新棟（仮称）が完成することであるが、これに伴う既設棟の再配置は、単なる引っ越しではなく、実験装置等の移設もあると思われ、関係各所と連携のうえ、問題なく完了していただきたい。</p>

#### 大学院事務部

<p><b>2011年度目標の達成状況に関する所見</b></p>
<p>目標はおおむね達成されており、目標達成に向けた努力もうかがえる。専門職大学院においては、入学定員と入学者の質の確保に向けて入学者のフォローや補習・補完教育等丁寧な支援策がとられており評価できる。</p> <p>しかし、定員の確保に向けた広報活動の強化等さまざまな努力はうかがえるものの、定員充足率のアップという目標達成にはいたっていない。入学者の質を維持しながら入学定員を充足させていくには、広報活動の強化だけでは解決できない課題もあると思われるので、教員との連携を図りながら、今後も引き続き目標達成に向けた努力を期待したい。</p>
<p><b>2012年度目標に関する所見</b></p>
<p>2011年度の目標を受けてさらに2012年度の目標を設定しており、適切である。定員充足等ビジョン主</p>

<p>要項目の定量的目標に対する目標も設定されている。</p> <p>しかし、同じく定量的目標に掲げられている大学院生の就職支援や司法試験合格者数の増加等に対する目標には触れられていない。いずれも簡単に達成できる目標ではないが、目標達成に近づけるべく今後の取り組みを期待したい。</p>
<p><b>総評</b></p> <p>研究科の統廃合や新研究科の設置等、ニーズに沿った教育研究体制を構築するためにさまざまな努力が行われていることは評価できる。</p> <p>しかし、定員の充足率を高めるという目標は達成できていない。2011年度は理系の在籍者数(入学者数)が減となったことも要因の一つとしてあげられているが、文系だけではなく理系の研究科も含めて今後のさらなる対策が必要と思われる。すぐに解決できる問題ではないと思われるが、教員との連携も含めて引き続き目標達成に向けた努力を期待したい。</p>

## 通信教育部事務部

<p><b>2011年度目標の達成状況に関する所見</b></p> <p>年度目標についてはおおむね達成されているといえる。</p> <p>「入学者の増加」や「離籍者の減少」という困難な目標に対してもさまざまな対策を講じており努力がうかがえる。特に、2013年度から実施を予定している通信教育改革は、カリキュラム改革等にも踏み込んだ内容となっており、在学生の学修支援充実のみならず志願者の増加に向けた対策としても評価できる。</p> <p>また、職員が通信教育部の業務に精通するために部内研修を実施しており、部局が一体となって通信教育部業務の質向上を目指す姿勢がうかがえる。</p> <p>残念ながら入学者の増加、離籍者の減少ともに目標達成とまではいっていないが、それに向けた努力がうかがえるので次年度以降の成果に期待したい。</p>
<p><b>2012年度目標に関する所見</b></p> <p>2011年度の目標を受けてさらに2012年度の目標を設定しており、適切である。</p> <p>法政大学のビジョン主要項目の定量的目標にそった目標も掲げられている。</p> <p>いずれもすぐに解決できる課題ではないが、今後も達成に向けた取り組みを期待したい</p>
<p><b>総評</b></p> <p>通信教育の大きな課題である学生の離籍率減少という目標に向けて丁寧な指導・対策が行われており評価できる。2011年度は東日本大震災の影響もあってか2010年度よりも増加となったが、離籍率は着実に減少してきており、今後も引き続き目標達成に向けた取り組みを期待したい。</p> <p>入学者増に向けた取り組みについても、出願動向を分析し効果的な広報戦略を策定するなど建設的な取り組みが行われており評価できる。今後も成果が期待される改革を実践しつつ、目標達成に取り組まれることを期待したい。</p>

## 中学高等学校事務室

<p><b>2011年度目標の達成状況に関する所見</b></p> <p>教員業務の一部について、業務内容の妥当性から事務職員担当への移行を達成したことは、教員の教育環境整備の面からも評価できる。円滑な運用ができるよう、処理方法の整備等に努力されたい。</p> <p>地域とともに生きる学校を目指して、定期的な懇談会の開催の他、様々な施策が実行されていることは評価できる。必ずしも予算措置を得られない状況においても、引続き最大限の努力を期待する。</p>
<p><b>2012年度目標に関する所見</b></p> <p>内的な改善、整備の達成状況から、2012年度は、HPのリニューアルによる情報公開の推進、志願者増という新規目標が掲げられていることは、評価できる。</p> <p>また、経営状況の改善を目標に掲げたことは適切であり、具体的計画を策定して目標達成を目指して欲しい。</p>

生徒の法政大学進学後および卒業後の状況把握は、学校運営のため貴重であり、適切な目標設定である。危機管理体制の整備および情報セキュリティ対策の策定は喫緊の課題であり、早急な対応を期待する。

#### 総評

業務運営について一定の改善は認められるものの、組織の安定的維持、外部からの評価向上のために、継続的な努力が必要である。ビジョン実現のための具体的施策に掲げられている生徒アンケートでの目標満足度の達成や高大連携の検討・実施等も視野に入れ、中学高等学校の発展のために尽力して欲しい。

### 第二中・高等学校事務室

#### 2011年度目標の達成状況に関する所見

危機管理体制について、全生徒分の防災用品の購入決定、避難方法の随時見直しと訓練の実施は、評価できる。

2016年度の新校舎完成・男女共学化に向けた準備は多岐にわたるが、学則改正に係る行政手続きの完了、中長期財政計画の策定の完了、新校舎建設およびキャンパス管理の検討等、計画的な業務遂行について、評価できる。

#### 2012年度目標に関する所見

2011年度に中長期財政計画を策定、理事会の確認を得ているとの達成報告から、新学費はある程度設定されているものと考えられる。より詳細な試算、検討により、学費設定、学則改正案の立案を行って欲しい。

新校舎完成時の川崎市との一時避難所としての協定締結について、地域への貢献、地域と共存する学校づくりのためにも、目標達成を期待する。

#### 総評

2016年度の新校舎完成・男女共学化に向けてのプロジェクト作業が、業務の中心になっていると思われる。引続き、プロジェクト作業達成に向けて尽力して欲しい。

また、ビジョン実現のための具体的施策に掲げられている生徒アンケートでの目標満足度の達成、出身者の大学在学中・卒業後の状況把握、高大連携等も視野に入れ、通常業務の遂行にも注力願いたい。

### 女子高等学校事務室

#### 2011年度目標の達成状況に関する所見

入試広報活動を強化し、受験生誘導施策を提案、実施することは重要であり、また、結果として、志願者の増加を達成できたことは、評価できる。

情報セキュリティの重要性に対する認識が高く、現状把握から具体的対策の実施を行い、ハード面の措置を完了したことは、評価できる。引続き、教員への情報セキュリティ意識の涵養に努力して欲しい。

#### 2012年度目標に関する所見

2011年度に引続き、学校説明会等への参加者および志願者の増加を目標として掲げている。具体的施策を検討のうえ、目標の達成を期待する。

危機管理マニュアルについては、2010年度、その有用性が評価されている。常時、点検整備を行うとともに、具体的備蓄品の点検・整備を心掛けることは、重要なことである。

#### 総評

将来構想も検討されつつ、生徒確保の積極的な施策の実施等により学校運営の一層の活性化を目指して欲しい。

また、ビジョン実現のための具体的施策に掲げられている生徒アンケートでの目標満足度の達成、出身者の大学在学中・卒業後の状況把握、高大連携等も視野に入れ、業務遂行に尽力願いたい。

## 学生支援本部

### 学生センター

<b>2011 年度目標の達成状況に関する所見</b>
目標達成に向けた努力が継続的になされていることは評価できる。 復学支援プログラムや「見守り留学」体制により学生の学業復帰や留学修了の実績をあげていることは大変評価できる。引きこもりや心の問題を抱える学生が年々増す状況において、今後もきめ細かい支援体制が望まれる。 経済状況の悪化や震災の影響による要支援者が増加するなか、奨学金新設をはじめ、さまざまな支援策を迅速・柔軟に行っていることは高く評価できる。
<b>2012 年度目標に関する所見</b>
目標 1（2）を除き、すべての目標の難易度が A 評価となっている。緊急性、実現可能性等を踏まえ、優先順位付けや具体的な実行計画を策定する必要がある。 目標 4 について、ことに近年、大学祭は学生のイベントから受験生をはじめとする一般の方々も参加するパブリックなイベントとなっていることを踏まえ、安心・安全の確保は喫緊の課題であるとの認識のもと実効性ある対策が執られることを強く望む。
<b>総評</b>
多岐にわたる学生支援の目標を掲げ、その実現に向けた努力が継続的になされている。奨学金等の見直しについては、関係部局等とより緊密に連携し、支援策が拡充されていくことを望む。

### 保健体育部

<b>2011 年度目標の達成状況に関する所見</b>
関係部局とも連携し、特に体育会所属学生に対する支援や心の病を抱える学生に対するケアに努めていることがうかがえる。しかしながら、各年度目標に対し具体的にどのような成果が見られたかの詳細な記載がない。 また、一部の課の報告のなかで、「特に何もしていない」という記載があるが、この理由についての記載が必要ではないか。
<b>2012 年度目標に関する所見</b>
目標 1～4 について、2011 年度の年度末報告において既に「制度の適正な運用が実施できた」などの報告がなされているが、2012 年度目標にも同じ内容の目標設定がなされている。何か追加の施策を施す計画があるのか。
<b>総評</b>
全体として、学生支援を主眼においた取組を着実に進めていることが評価できるが、年度毎の達成状況・目標設定等をより具体的に設定することが望まれる。

### キャリアセンター

<b>2011 年度目標の達成状況に関する所見</b>
各年度目標が具体的かつ定量的に設定されており、またこれに対する達成状況も同様に報告がなされていることは評価できる。ただし、未達成の目標については結果数値のみの報告となっており、分析結果を記載することが必要ではないか。 目標 7 のサービス向上策の提言目標（1 施策以上）について、5 施策実施するなど積極的に取組んでいる姿勢が伺え、大変評価できる。
<b>2012 年度目標に関する所見</b>
昨年度同様、実績を踏まえた定量的目標の設定がなされており妥当である。ただし、昨年度未達成の目標については、より具体的な方策等に関する記載が必要と思われる。

目標9及び10のエクステンション・カレッジに関する目標設定についても、上記と同様に、より具体的に定量的数値目標の設定を行うことが望ましい。

#### 総評

就職支援、キャリア支援に関する各種施策を着実にしていることは大いに評価できる。ただ、一部で指摘のある進学者を除く卒業生全体に対する就職率向上に向けた施策も併せて検討する必要があるのではないかと。

また、毎年職員のスキルアップに向けた専門的研修の受講に取り組んでいることは大変評価できることである。こうした経験が職員自身の専門性の会得やキャリア形成にも役立つことを期待する。

## 国際学術支援本部

### 研究開発センター

<b>2011 年度目標の達成状況に関する所見</b>
研究倫理規定について、最終決定に至らなかったことは残念である。規程制定、施行に向けて、早急な対応を期待する。 科研費について、継続案件を含め採択件数が前年度を上回り、交付金額の増加も見込まれたことは、評価できる。継続的な外部資金の増額確保を目指されたい。
<b>2012 年度目標に関する所見</b>
研究所の活性化策として、研究所の再編、研究所長会議の新設等を目標に掲げ、また、法人財政負担の軽減を目指して法人附置研究所の在り様について検討することは、適切である。外部資金獲得の見直し他、運営状況に鑑み、判断願いたい。 外部資金不正経理の防止について、啓蒙活動の活発化と共に不正経理処理ができない環境の整備は喫緊の課題であり、適切な目標設定である。 なお、2011 年度未達である研究倫理規定については、早急な諸規程の制定、施行、研究者への周知が必要である。
<b>総評</b>
激化する大学間競争を生き抜くためにも、資金力の強化は、重要な課題の一つである。中でも、外部資金獲得による研究資金の拡充は、研究活動の活性化のためにも重要である。事務組織体制を強化し、積極的な外部資金獲得の先導的役割を果たされることを期待する。

### 国際交流センター

<b>2011 年度目標の達成状況に関する所見</b>
留学生確保のための重要支援策である就職支援および奨学金受給率アップに努力されており、評価できる。今後、具体的な就職データ作成による効果の把握、広報材料としての活用を期待する。 協定校の 11 大学の増加は、評価できる。協定校とのより一層の有効な関係の構築を期待する。 短期留学生受け入れの新規プログラムは実施を見送る結果となったが、翌年度の実施と共に、中止に伴う返金・デポジット制度の制定について引続き検討されたい。
<b>2012 年度目標に関する所見</b>
2011 年度に引続き、留学生の奨学金の充実、協定校の増加等を図ることは、グローバル化に対応する国際的プログラムの強化策として重要であり、適切な目標設定である。2011 年度未達の新規受け入れプログラムについても、実施を期待する。 留学生に対する就職支援の充実について、具体的な目標達成策を設定のうえ、努力されたい。 また、SA 制度担当部署の組織変更を受け、関連部署との業務分担等に関する綿密な協議のもと支援体制を再構築し、SA 制度の一層の発展を期待する。
<b>総評</b>
世界で勝ち抜く人材の育成において語学教育の強化は欠かせず、とりわけ、留学経験のもたらす効果は大きい。SA 制度の担当部署は複数回変更されているが、学務部等関連部署との強固な連携のもと、SA 制度の安定的な運用および拡充を目指して欲しい。

### 総合情報センター事務部

<b>2011 年度目標の達成状況に関する所見</b>
全学ネットワーク、各キャンパス情報教育システム、事務基幹システムのいずれも、安定的稼働に入りつつあり、重大な障害発生による業務・授業の滞りは避けられており、評価できる。 障害の減少、業務体制等の見直しにより、時間外勤務時間の削減を達成し、職場環境が改善されたこと

<p>は、評価できる。</p> <p>情報セキュリティ策定の準備は、未実施となっているが、その理由が不明である。</p>
<p><b>2012 年度目標に関する所見</b></p> <p>2011 年度に引き続き、諸システムの安定的運用、および、全学ネットワークの中間見直し年である 2013 年度に向けての見直し案の策定・決定を目標に掲げていることは、適切である。</p> <p>また、人材育成について、専門的スキルに加え、各種業務システム開発等の際に必要な他部局業務の基礎的知識の習得を目標に掲げていることは、適切である。</p> <p>2011 年度未達の情報セキュリティ策定に関して、目標が設定されていない。総務部と協議のうえ、再度の目標設定が必要ではないか。</p>
<p><b>総評</b></p> <p>安定的かつ安全なシステム稼働を支える組織体制の強化は重要である。OJT および外部機関の専門研修の活用による計画的・効果的な人材育成プランの策定、実施を期待する。</p>

## 図書館事務部

<p><b>2011 年度目標の達成状況に関する所見</b></p> <p>図書館が担う情報リテラシー教育の一つであるゼミサポートガイダンスは、目標実施率の達成には至らなかったが、要因は主として震災の影響によるガイダンス実施可能期間の縮小にあり、次年度での取組みの拡大に期待したい。</p> <p>また、教育・研究成果の学外への発信ツールである機関リポジトリへの新規登録件数について、目標指標を達成できたことは評価できるが、目標指数の妥当性が不明であり、設定根拠を明らかにされたい。</p>
<p><b>2012 年度目標に関する所見</b></p> <p>学生支援機能の強化策について、2011 年度に引き続き、ゼミサポートガイダンスへ注力することは評価できる。具体的な目標達成策を設定のうえ、努力されたい。また、ラーニングコモンズについて、多摩・小金井両キャンパスへの拡大を目標とすることは、評価できる。市ヶ谷キャンパスでの先行事例も参考に、開設実現を目指されたい。</p> <p>2011 年度に引き続き、学術・研究分野において社会貢献を果たす機関リポジトリの一層の強化を目標とすることは適切である。</p>
<p><b>総評</b></p> <p>学術・研究、教育の基盤となる図書館は、本学学生・教員の支援のみならず、一般社会に対してもその担う役割は大きく、最良のサービス提供が求められる。予算削減により開館日数の縮小を余儀なくされているが、固定費が多くを占める図書館運営費用について、一律予算削減の適用は限度があると考えられる。予算削減は、学生サービス・研究支援の強化のための財源捻出のために行われているものでもあり、必要経費の予算要求は必要ではないか。</p>

## 情報技術（IT）研究センター事務室

<p><b>2011 年度目標の達成状況に関する所見</b></p> <p>外部資金獲得に向けた取り組みについては、一定の成果が見られ、今後に向けた情報収集も含め、実現の努力は評価できる。また、シームレスな遠隔講義システムの構築と海外拠点を結んだ遠隔講義の実践についての達成状況も良好であり、特に東日本大震災被災学生・大学支援についても評価は高いであろう。さらに、教育・研究支援体制及び職場環境の整備についても、適切に実施されている。</p>
<p><b>2012 年度目標に関する所見</b></p> <p>前年度に引き続き、外部資金獲得に向けた取り組みを目標に挙げており、適切であると考えられる。達成に向け努力してほしい。</p>
<p><b>総評</b></p> <p>IT 研究センターは、国内外の産・官・学の各機関等と連携しながら、IT に関する教育・研究を推進</p>

する機関であるが、今後、海外拠点等のあり方が検討されている状況にあって、当センター事務室の運営を如何に変化させるかの視点が必要になる。

### 国際日本学研究センター事務室

#### 2011年度目標の達成状況に関する所見

目標は3点であるが、年度目標は概ね達成している。特に、研究費の会計管理については、社会的にも適正な管理が求められ、今後も引き続き努力してほしい。また、広報活動ではツイッターを活用しているとのことであるが、本活用においては、一般的に日々の更新の煩雑さや担当が属人的になりがちなのが問題として挙げられるが、目標は十分達成されているとのことなので、大いに評価できよう。

#### 2012年度目標に関する所見

研究機関として、新たな研究費獲得のための支援体制の整備や協定締結の拡大は特に重要であり、確実に達成してほしい。また、非常に見づらいHPをリニューアルすることであるが、その姿勢は大いに評価できる。現在のHPや他機関等のHPを分析・比較し、是非より良いHPを構築してほしい。

#### 総評

専任職員が1名しか配置されていない状況にあり、マニュアル作成を2012年度の目標に挙げている。2011年度目標で、臨時職員・事務嘱託のスキルアップを達成したとのことなので、上手く連携し、より効率的な内容になるよう努力してほしい。また、各種情報発信の重要なツールであるHPのリニューアルについても、その成果に期待したい。

### 地域研究センター事務室

#### 2011年度目標の達成状況に関する所見

2011年度目標は概ね達成している。特に、新たな自治体との事業提携を行った点や研究所の設立、公開セミナーの開催への努力は評価したい。また、受託研究や補助金事業の獲得は、研究センター事務室としての大きな目的のひとつであるが、地道な活動が必要であり、引き続き努力してほしい。

組織的な会議運営については、開催頻度を年度末報告としているが、実質的な内容が不明確であり、その達成指標の点から若干の疑問が残る。

#### 2012年度目標に関する所見

2012年度目標については、適切であると考えられるが、新たな自治体との協定締結や外部資金の獲得等、昨年度に引き続き努力してほしい。また、当然のことであるが、研究費の適正支出の徹底は、確実に実施していただきたい。

#### 総評

地域研究センターは、グローバルな視点を持った地域研究の拠点として、知識、情報、地域連携のノウハウを地域社会に広く還元することを目的としているが、そのための紀要『地域イノベーション』の拡充は重要なツールとなろう。他の目標達成と合わせ、是非、成果の見える施策の達成を期待したい。

### マイクロ・ナノテクノロジー研究センター事務室

#### 2011年度目標の達成状況に関する所見

年度目標は概ね達成できている。ただし、老朽化している大型設備の更新に際し、競争的外部資金の獲得を図っているが、達成度はDであった。今後、運営委員会で費用対効果を踏まえて資金獲得の解決策を講じる必要があるとのことであるが、実現に向けた検討が引き続き必要であろう。

#### 2012年度目標に関する所見

2012年度目標は適切である。特に、競争的外部資金の獲得は大きな課題であるが、確実に実施できるよう検討を進めていただきたい。

#### 総評

今後の大きな課題は、競争的外部資金の獲得であろう。また、研究センターの使命としての社会連携・

社会貢献の視点も重要である。HPでの研究成果の公表や公開セミナーの開催等を行っているが、継続的な努力をお願いしたい。

#### サステナビリティ研究教育機構事務室

##### 2011年度目標の達成状況に関する所見

2011年度目標は概ね達成できている。特に、研究基盤の安定化として、震災からの復興を目的とする多くの補助金を獲得し、これが活動することで社会に広く貢献できた点は大いに評価できる。また、予算管理の適正化については、資金の有効活用の視点からも、改善の結果が表れている。

##### 2012年度目標に関する所見

2012年度目標については適切である。特に、今年度を2009年度設立以来の総括の年度と位置付けており、これまでの社会的・学術的意義を広く学内外にアピールする点は、節目としても重要である。達成に向け努力してほしい。

##### 総評

研究機構を維持するためにも、外部資金の獲得は避けて通ることはできない。また同様に、研究成果を広く社会にアピールすることも必要であろう。2012年度を総括の年度としているが、これら目標の確実な達成を期待している。

## ハラスメント相談室

<b>2011 年度目標の達成状況に関する所見</b>
ハラスメント防止及びハラスメントに対する知識を広めることを目指した研修会を学生向け、教員向け共に実施しており、目標達成に向けた積極的な取組がみられる。 付属校生徒用のリーフレット作成に向けた取組を開始した点は高く評価できるが、一部付属校教員からの懸念により合意が得られていないことは非常に残念である。
<b>2012 年度目標に関する所見</b>
ハラスメント相談室の認知度を高めるための取組やハラスメント行為に対する理解を深めてもらうための取組が活発になさされていて、高く評価できる。 2011 年度末報告で未達成であった付属校生用リーフレットの作成が年度目標から外れているが、特別な事情があるのか。
<b>総評</b>
サークル・体育会所属学生向けの研修を昨年度は一般学生や教員向けにも実施するなど、過年度の実績を踏まえて着実に取組んでいる。付属校生へのリーフレット配布など、更に活動が広がることを期待する。

## 監査室

<b>2011 年度目標の達成状況に関する所見</b>
少ない人員にもかかわらず全部局内部監査 2 年サイクルで着実に実施されており、高く評価できる。 内部監査と公的研究補助金等の内部監査で改善及び改善実施報告書の提出を求めているが、こうした指摘事項のうち他部局等で今後の運営上参考とすべきものについて、一般的な内容として取りまとめて公表・周知するなどしてもよいのではないか。
<b>2012 年度目標に関する所見</b>
計画サイクルに基づいた監査計画が立てられており、適切である テーマ別監査への移行を検討するなど、これまでの監査内容・実績を踏まえた業務目標が立てられており評価できる。 検収センター設置計画の策定に関しては、これまでの知見を活かし積極的に関わっていくことを期待する。
<b>総評</b>
適切に年次目標が立てられ、かつ実施されており、効率的・計画的な運営がなされている。